

# 熊本市（熊本県）

## 【自治体のあらまし】

熊本市は、熊本県の西北部に位置しており、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯、南部は白川の三角州で形成された低平野からなっている。明治 22 年に市制が施行され熊本市が発足し、その後、近隣町村と合併しながら、平成 8 年には中核市となり、平成 24 年には政令指定都市へと移行した。

サービス産業を中心としながら、IC 産業の集積、全国でも高い生産性を誇る都市型農業、水産業など各種産業が展開されている。

人口 740,212 人（平成 30 年 2 月 1 日現在）

## 【文化芸術創造都市への代表的な取組】

心豊かな市民生活を実現するとともに、市の活力と魅力を高め、「文化力」により評価される都市を目指すため、平成 22 年に「人とまちが元気になる文化創造都市の実現」を基本理念とした「熊本市文化芸術振興指針」を策定。「文化芸術鑑賞機会の充実」、「文化芸術活動への支援」、「文化芸術を支える体制づくり」の 3 つの方針に基づき、市民、民間団体、地域、企業、行政等の様々な主体が連携・協働しながら取組を進めることとしている。

熊本市現代美術館では、市民に文化芸術の新たな捉え方を提供する意欲的な展覧会の企画に取り組むとともに、他団体との連携事業も含めた多様な文化事業が館内外で展開されている。また、市民が参画する美術館ボランティアの仕組みは、全国の文化施設のモデルとなっている。

さらに、熊本城をはじめとする文化財の保存修復・活用に関して、市民参加型の資金調達の仕組みを整備し、熊本地震後も市民や関係者の協力を仰いで被災文化財の復旧活動に取り組んでいる。

### ●市民との協働を意識した熊本市現代美術館の運営

「アート<sup>ひ</sup>の力を見せるー惹きつける、変える」、「アートへの愛情を育てる、根づく土壤をつくる」、「アートが人をつなぐ、アートで都市をデザインする」という基本理念に基づき、水準の高い企画展の開催に努めている。

多くのボランティアスタッフが、展示作業やイベントの補助、絵本の読みがたり、図書管理や発送業務などの幅広い活動を行っており、エントランスでは多様な文化活動を展開する中、多くの市民がくつろいでいる。さらに、様々な団体と協力して、ワークショップやアートプロジェクトなどのアウトリーチ活動を行い、地域と協働した美術館活動を展開している。平成 28 年熊本地震の際もいち早く開館し、多くの市民に

芸術文化の鑑賞のみならず活動の場を提供し、『文化芸術の力による心の復興』に取り組んだ。



ホームギャラリー



上通チャリティ演劇まつり



熊本復興マッチフラッグWS

### ●市民参画型の文化財の修復と活用

熊本城の復元整備のため、平成10年に市民参加型の資金調達の仕組みとして「一口城主」制度を導入した。特典として、城主証及び熊本城など市が管理する施設の入場料が無料となり、「城主手形協賛店」において割引などを受けられる城主手形発行や天守閣内への芳名版の掲示などを設けた。寄せられた寄附金は熊本城復元整備基金に繰り入れられ、本丸御殿大広間の復元などに用いられてきた。

また、市内に存在する文化財の保存修復等を行うため、平成18年に「熊本市文化財保存修復基金」を設置。市文化財保存修復基金運営協議会による審議を経て、対象となる事業を決定している。

平成28年4月に発生した熊本地震により熊本城の他、熊本藩主細川家墓所、洋学校教師館をはじめとする多くの文化財が甚大な被害を受けた。そのため、熊本城については、同年11月に「一口城主」制度をベースとした「復興城主」制度を開始し、これまでに約87,000件、約16億円の寄附金が寄せられている。また、熊本市文化財災害復旧支援金口座を開設し、多くの市民や団体、また、全国からも被災文化財の復旧のための寄附金が寄せられている。

熊本市では、これらの寄附金を有効に活用するため、熊本城の復旧に向けた「熊本城復旧基本計画」において、城主制度などによる継続的な市民等の参画による復旧を施策のひとつに掲げて、20年を掛けた熊本城の復旧に取り組んでいる。

また、熊本城のほか、歴史的建造物や古墳などについて、学識経験者を交えた様々な復旧検討委員会等を開催し、歴史的価値の保存を前提に、耐震性の向上など、復旧後の見学者の安全にも配慮した復旧を目指して取り組んでいる。



大小天守(被災前)



天守閣入り口(被災後)



復旧工事中の大小天守